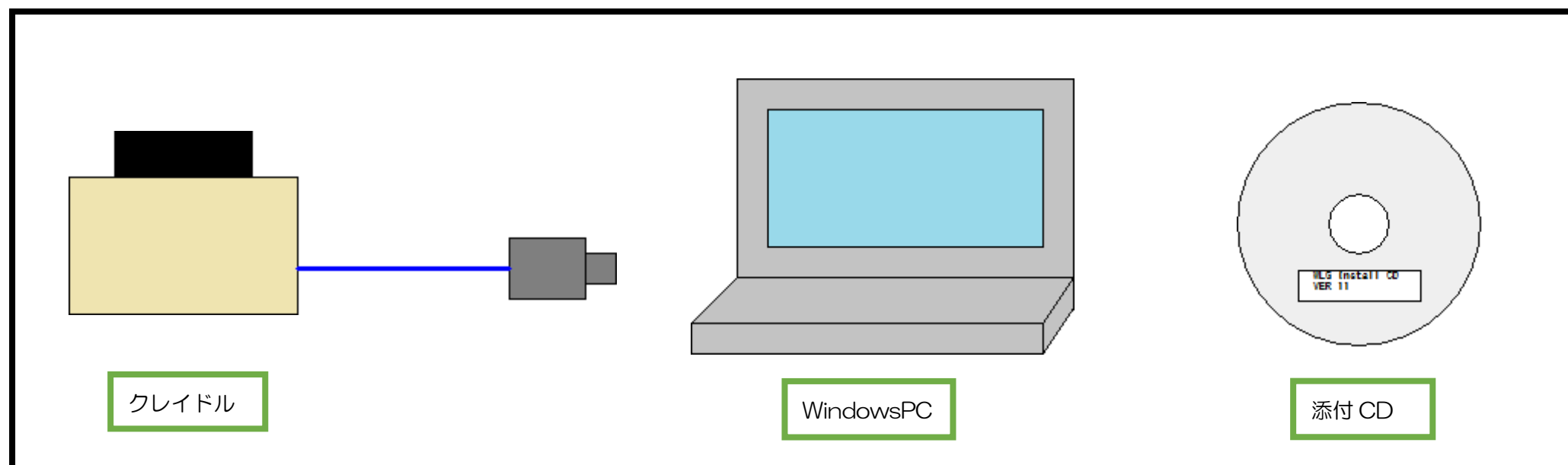


# WLG インストールマニュアル（A3 版）

## （準備するもの）



## （クレイドルと PC を接続）

①PC とクレイドルを USB 接続すると自動的にクレイドル用のドライバが PC へセッティングされる。

下の様な吹き出しメッセージが出てしまう場合は、

PC とクレイドルの USB 接続を一度外して、添付 CD に入っている「**CDM v2.12.00 WHQL Certified.exe**」を「管理者として実行」してインストールした後に、再度、PC とクレイドルを USB 接続する。

## （ソフトウェアのインストール）

測定開始、停止、データ回収ソフト（WLG-PG-11）

①添付 CD 内の WLG\_PG11\_SETUP をダブルクリックして InstallShield ウィザードを立ち上げて、「次へ」ボタンを押した後に、「完了」ボタンをおす。

↓

デスクトップ、プログラムメニューへソフトウェア起動用「WLG-PG-11」のショートカットが出来る。

グラフ表示、大気圧補正ソフト（WLG-GRH02）

①添付 CD 内の WLG\_GRH02\_SETUP をダブルクリックして InstallShield ウィザードを立ち上げて、「次へ」ボタンを押した後に、「完了」ボタンをおす。

↓

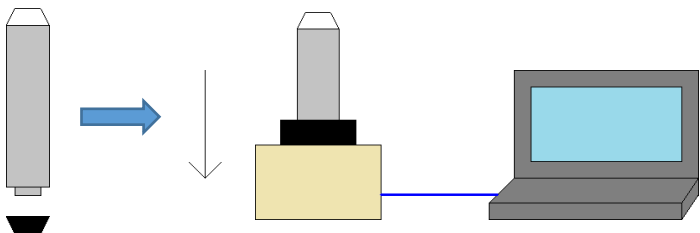
デスクトップ、プログラムメニューへソフトウェア起動用「WLG-GRH02」のショートカットが出来る。

インストールしたソフトウェアが起動出来ない場合は、添付 CD に入っている「**NDP451-K B2858728-x86-x64-AIIO-ENU.exe**」を「管理者として実行」してインストールした後に、再度、ソフトウェアを起動する。

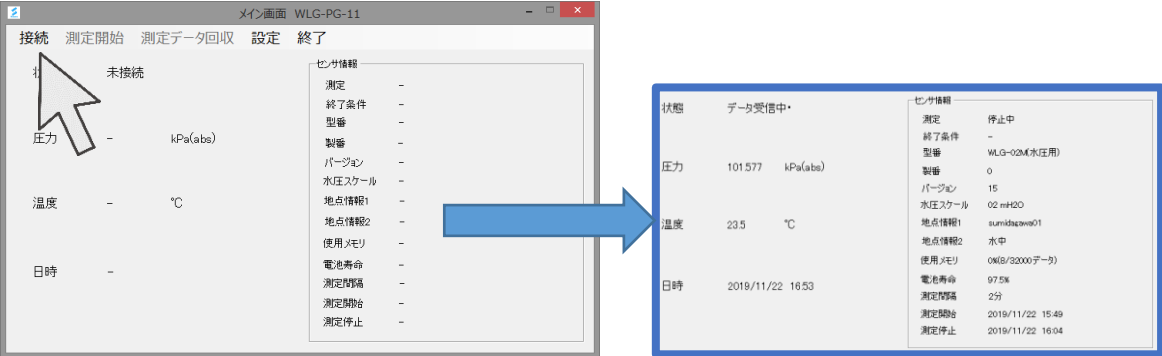
WLG-PG-11 マニュアル（A3 版）

（センサ接続、情報読込）

①センサの通信カバーを外して、クレイドルへセンサを挿入した後、センサが回らなくなるまで、ゆっくり回す。



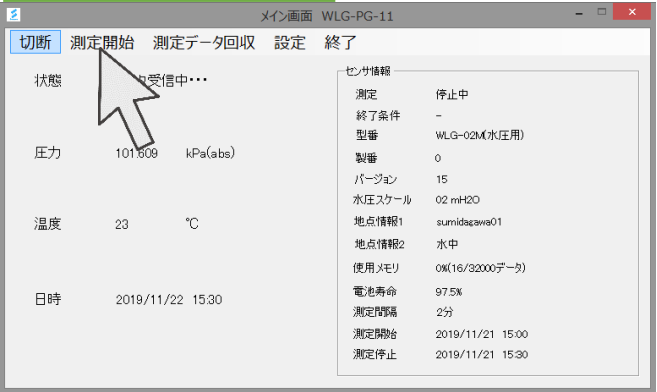
②WLG-PG-11 を起動して、接続を押すと、センサと PC が接続状態になり、センサ情報が自動的に読み込まれる。



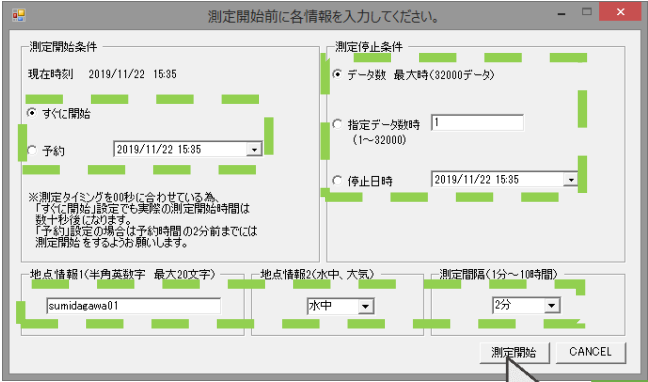
（測定開始）

①（センサ接続、情報読込）の内容と同じ事を行う。

②測定開始を押す。



③測定開始条件、測定停止条件、地点情報、測定間隔を設定する

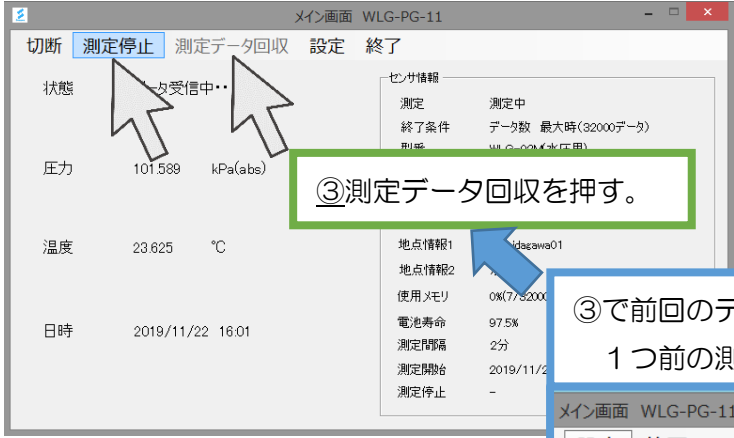


④測定開始を押す。

（測定停止、データ回収）

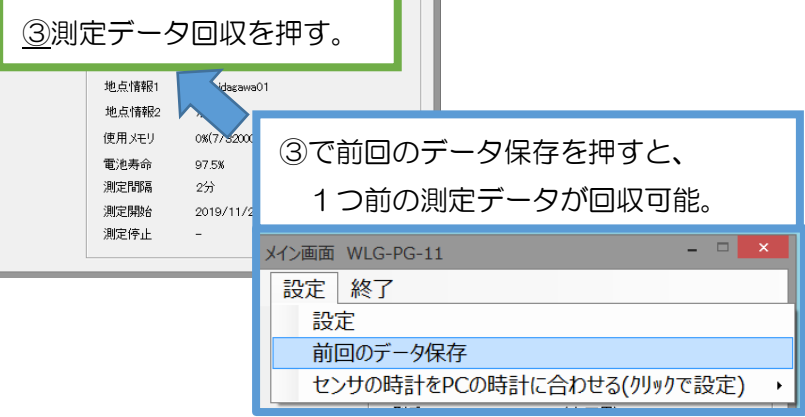
①（センサ接続、情報読込）の内容と同じ事を行う。

②測定停止を押す。

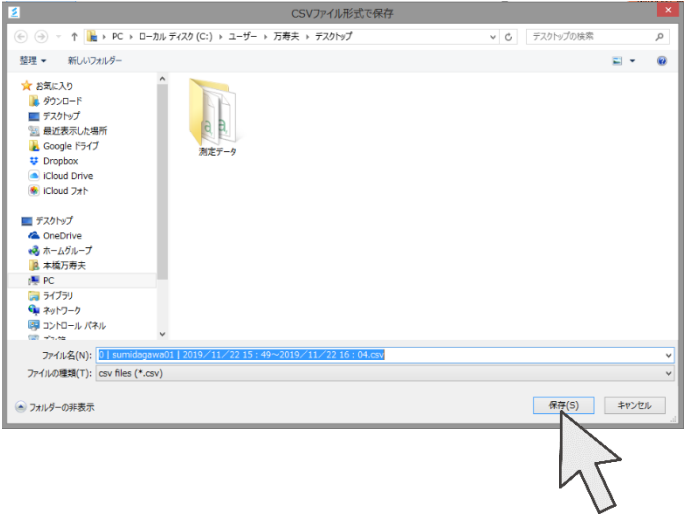


③測定データ回収を押す。

③で前回のデータ保存を押すと、1 つ前の測定データが回収可能。



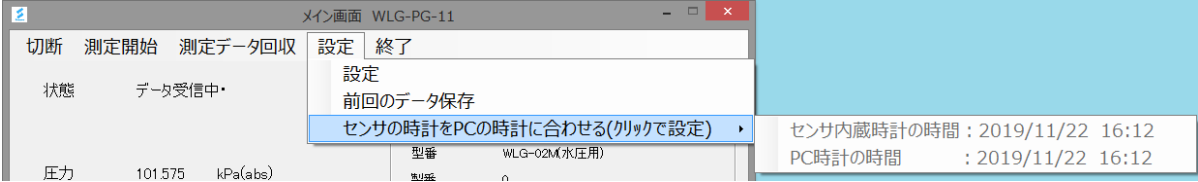
④ファイル名を指定して、保存を押す。



（センサの時計合わせ）

①（センサ接続、情報読込）の内容と同じ事を行う。

②設定を押して、「センサの時計を PC に合わせる(クリックで設定)」を押す。



測定時間を正確にする為、測定前に「センサの時計合わせ」を行って下さい。※測定中にはできません。

WLG-GRH02 マニュアル（A3 版）

（大気圧補正）

①WLG-PG-XX で回収した  
「水位計」 測定データをドラッグ & ドロップ。

②WLG-PG-XX で回収した  
「大気圧計」 測定データをドラッグ & ドロップ。

③読み込んだ各測定データを  
クリックする。

④補正ボタンをおす。

⑤大気圧補正データが作成される。

水位計218を大気圧計213で補正する

※WLG-GRH02 で読み込んだ測定データ、また、作成した大気圧補正データは  
PC 内へ自動的に保存されます。ソフトを再起動してもデータは残っています。

（グラフ操作）

①拡大したいグラフをダブルクリック。

②拡大したグラフ

カーソルを合わせたグラフポイントの測定値表示。

キーボード「L」を押してライン表示。  
キーボード「P」を押してポイント表示。

ドラッグでドラッグ箇所グラフ拡大  
(右クリックで拡大解除)。

③グラフをダブルクリックで前画面へ戻る。

（他機能）

測定データ、補正データの  
追加、削除。

補正後の水位データへソフトウェアで  
-100.000~100.000mH2O の  
オフセットが掛けられる。  
※補正データのみの機能  
※オフセットは本ソフトウェアの  
グラフ上でのみ適用される。

測定データ、大気圧補正データを csv 形式で保存する。  
表示グラフを画像形式で保存する。  
表示グラフを印刷する。

測定データ、大気圧補正データの各項目を  
クリックすることにより、データの順番を  
選択項目の昇順、降順にすることが可能。

CTRL キーを押しながらデータを複数クリックで選択して、  
下図ボタンを押すことにより、複数データを  
1 つの表へまとめる事が可能です。(形式: csv ファイル)

追加 csv保存  
削除 画像保存  
水位  
オフセット 印刷

製造番号 | レンジ | 地点1情報 | 測定開始 ~ 測定停止  
218(水圧)-213(大気圧) | 10mH2O | asagawa01  
218(水圧)-230(大気圧) | 10mH2O | asagawa01  
244(水圧)-213(大気圧) | 30mH2O | tamagawa01

製造番号 | レンジ | 地点1情報 | 測定開始 ~ 測定停止  
260 | 02mH2O | tama\_river06 | 2017/05/2  
260 | 02mH2O | tama\_river06 | 2017/06/1  
218 | 10mH2O | tameike02 | 2019/01/09  
218 | 10mH2O | tameike02 | 2019/02/05  
218 | 10mH2O | tamagawa01 | 2018/08/2  
351 | 10mH2O | simantogawa | 2018/10/1

補正後データ  
(ctrl+クリックで複数選択可)  
複数のデータを  
1つの表にまとめて  
csv保存  
● 水位 ○ 温度

WLG 製品の取扱い 1 / 2 (A3 版)

(取扱い)

水位計、大気圧計写真



検出部キャップ

検出部 内部

ダイヤフラム

筐体

通信カバー

通信部 内部

通信用素子

クレイドル写真



コネクタ部

本体

(水位計、大気圧計)

- ・ダイヤフラム（検出部側内部）に不用意に触れないこと
- ・ステンレス(SUS316 / SUS316L)、樹脂（POM）を害する雰囲気で使用しないこと。

(クレイドル)

- ・本体は防滴仕様、コネクタ部は防滴、防水ではありません。
- ・樹脂（POM、ABS）、PVC を害する雰囲気で使用しないこと。

(水位計、大気圧計、クレイドル 共通)

- ・大きな衝撃を与えないこと
- ・凍結させないこと（水位計、大気圧計の検出部は凍結させると破損してしまう可能性があります。）
- ・精密電子機器のため、取扱いには十分配慮すること。
- ・直射日光や高温状態に長時間さらさないこと。

(水位計、大気圧計の設置)

設置場所の選定

(水位計)

- ・流木、転石などで水位計、大気圧計が破損する恐れがない場所。
- ・出来るかぎり流速の少ない場所。
- ・必要に応じて、容易に水位センサ本体部を引き上げて点検できる余裕がある場所。
- ・厳冬期に外温度が下がっても水位センサ本体部が凍結しない場所。

(水位計、大気圧計 共通)

- ・地形的に安定している場所。
- ・センサ本体部に直射日光が長時間当たらない場所。

設置方法

(水位計)

- ・ボーリング孔内へ設置の場所は必ず保護管を使用し、先端部には透水管を設置する。
- ・水位計本体を観測点までつり下げる。この場合あらかじめ量水標などで正しい水位値を調べておく。
- ・水位計本体部が異物の飛来、落下等で傷つく恐れがある場合、必要な保護策を講じる。
- ・必要に応じて、容易に水位センサ本体部を引き上げて点検ができる設置構造にすること。
- ・その他、設置場所の状況に応じて必要な安全策および保護策を講じること。

(水位計、大気圧計 共通)

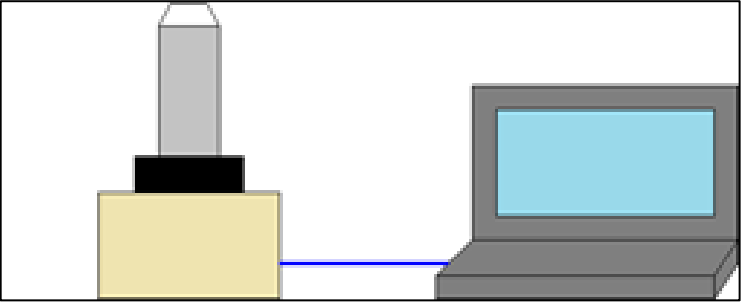
- ・姿勢変化による測定誤差を軽減するため、垂直に立てた状態（検出部を下側）で設置すること。



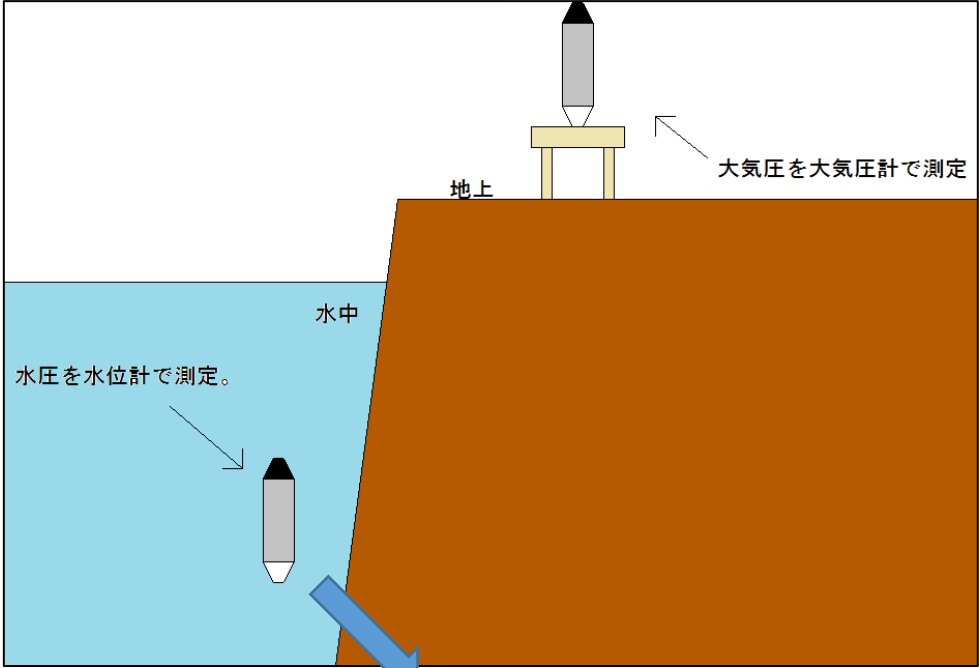
WLG 製品の取扱い2／2（A3 版）

（測定例）

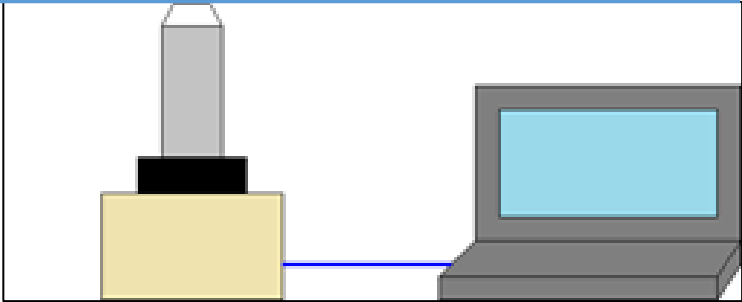
①水位計と大気圧計をクレイドル、PC と接続して、WLG-PG-11 で測定開始。




②水位計、大気圧計を設置して、測定。



③水位計、大気圧計のデータを WLG-PG-11 で回収、WLG-GRHO2 の大気圧補正機能により正確な水位データを算出。



右写真の水位計検出側の赤線のラインが測定基準点（0mH2O）となりますので、設置の際にはご留意下さい。



※簡易的に図示した使用例です。  
実際の測定には測定場所に合わせた設置を行って下さい。

（保守、点検）

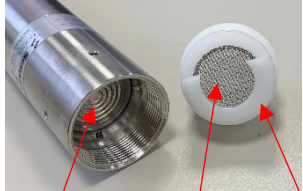
（水位計、大気圧計 検出部）

- ・年に1度の頻度で検出部のキャップをはずして、点検を行ってください。
- ・フィルターの汚れは、やわらかい歯ブラシを使用して丁寧に落とした後、清水で洗い流してください。
- ・ダイヤフラムは、通常は清水ですすぐ程度で十分ですが、汚れがひどい場合は、綿棒等柔らかいもので傷、へこみ等がつかない様に慎重にぬぐい取った後、清水で洗い流してください。点検後、キャップをはめてください。

（内蔵電池）

- ・3年に一度の電池交換を推奨致します。※電池交換は本社・工場で行う事が可能です。（有償）

検出部 分解写真



ダイヤフラム      キャップ  
フィルター

（保証範囲）

(1)この製品の性能保証期間は納入後 1 年間と致します。

保証期間内に弊社の責による故障が生じた場合には、その機械の保証部分の交換をおこないます。但し、次に該当する場合はこの保証範囲外とさせていただきます。

- ①お客様の不適切な取扱い、または使用による場合
- ②弊社以外の改造、または修理による場合
- ③その他天災、災害、争乱等で弊社の責にない場合
- ④測定流体による故障の場合

尚、ここでのいう保証は、納入品単体の保証を意味し納入品の故障により誘発される損害はご容赦頂きます。

(2)この製品は、人命にかかわるような状況の下で使用される機器、あるいはシステムに用いられることを目的として設計・製造されたものではありません。

(3)記載内容は、お断りなく変更させて頂くことがあります。